

7月16、17日に八峰町で第5回東北ジオパークフォーラムが開催され、東北地方のジオパークと、ジオパークを目指す地域の関係者が一堂に集まりました。同フォーラムは関係者の意見交換や交流のために、毎年場所を変えて開催しています。

基調講演

1日目は、ファガスで秋田大学の林信太郎教授による基調講演「東北のジオパークを結びつける『マントルの熱い指』」八峰白神ジオパークと東北日本のジオストーリー」が行われました。約170人が参加し、盛況のうちに終わることができました。以下は講演の要点です。



林教授の講演

●東北ジオパークの中で共通点を見つけてつながること、

差別化をして競争することの両方が必要。

●東北地方の東西方向に点在する山地は、マントルの熱いかたまりが指のように上昇して冷えて固まったために隆起、形成したという説があり、東北のジオパークはほとんどがその隆起に関係している。

●各ジオパークに共通するテーマの一つに例えば「防災」があり、日本海中部地震や東日本大震災の記憶を風化させない役割をジオパークが担っている。

分科会

首長セッション、実務者セッション、ガイドセッションの3つの分科会を開き、それぞれの立場で意見交換やグループワークを行いました。

ガイドセッションでは、テーマを「ジオを楽しむためのガイドの役割」とし、各地域のガイドが自らの経験をもとにアイデアを出し合いました。活発な議論が行われ、ガイドの工夫とし

て「お客さんの年代や性別、地域性に合わせてガイドすること」や「一方的な解説ではなく、クイズなどを出してお客さんとのコミュニケーションを重視すること」などが提案されました。

エクスカージョン

(体験型見学会)

八峰白神ジオパークの見どころを紹介しようと、3つのコースに分かれて、八峰町白神ガイドの説明とともに各地を巡りました。

日本海コース

ジオサイトである「白神のスフィンクス」や「樺海岸の柱状節理」など八峰町の海岸沿いを中心に巡りました。参加者は、実際に柱状節理に近づいて、マダマが冷えて固まった様子を興味深く観察していました。

十二湖コース

凝灰岩で構成される日本キャニオンや、1704年に崩山が崩落して形成された十二湖の観察を行いました。日本キャニオンでは、凝灰岩が作りだした

壮大な景観に参加者は驚嘆していました。

白神山地コース

二ツ森登山をとおして、白神山地における急峻な地形・地滑り地形とブナの天然林との関係を紹介しました。霧の中の登山でしたが、ガイドが晴天時の白神山地の写真を見せるなど工夫を凝らし、参加者に楽しんでいただきました。



二ツ森山頂での記念撮影

八峰白神ジオパーク推進協議会

地域おこし協力隊 三輪 拓磨

〒0182632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

ぶなっランド内

TEL 0185-77-3086